

<兵庫東支部 HP 会員だより>

西インド『仏教遺跡紀行』第1弾

2024年12月10日(火)～12月15日(日)

令和6年12月17日
レポート 関谷 勇

はじめに

◇囲碁同好会の飲み会において、海外旅行の話で盛り上がっていたとき、私が冗談半分で、「死ぬまでに仏教遺跡に行ってみよう！」と言ったところ、海外赴任豊富な角尾さんが、本当に受けて『アジャンタ・エローラ・エレファンタを巡る西インド6日間』を予約してくれた、かつ一緒に行くことになった。この「JTB 旅物語」ツアー参加者は6名で催行になった。

◇じつは、私は、インド哲学者・中村元教授の選集32巻を読み続けており、釈迦(仏教)が生まれたインドに一度は行ってみたいと思っていたのでした。

◇その願いが叶って第1弾は「インド三大石窟」に決定した・・・ついに傘寿を越えた男が、18年ぶりの海外旅行に行くことになった次第です。

第1日目：12月10日(火) 出国・移動

◇関西空港からクアランプール経由でムンバイ空港へ。ドアツウドア22時間。ムンバイ泊。

◇久しぶりの関空でびっくりしたこと。なんと外国人が7～8割、その殆どがアジア人です。昔に比べて海外に行く日本人が少ない、円安効果？ これをインバウンドというのか？

第2日目：12月11日(水) 世界遺産・アジャンタ石窟僧院・オーランガバード観光

◇ここは玄武岩の岩山を掘って造られた古代の仏教寺院で、紀元前2世紀から7世紀わたって造営されていた。インドの最高の仏教壁画が残されています。大小30ほどの洞窟群の石窟があります。見学約3時間。

◇オーランガバード市は人口150万人の地方の農村都市である。まだ道路などインフラは未整備で、私のイメージでは、30年前の中国華南地方の雑踏の姿に重なった。ただしケイタイとスマホの時代の違いがあります。オーランガバード泊。



アジャンタ石窟群前にて



アジャンタ石窟群全景

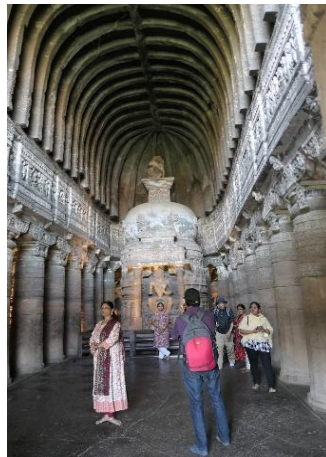


アジャンタの仏像

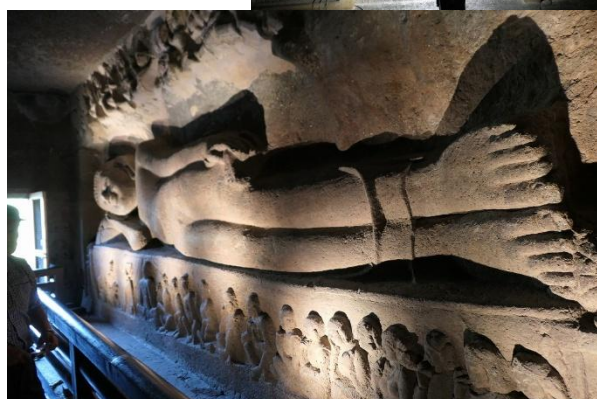
アジャンタの仏塔1



アジャンタの仏塔2



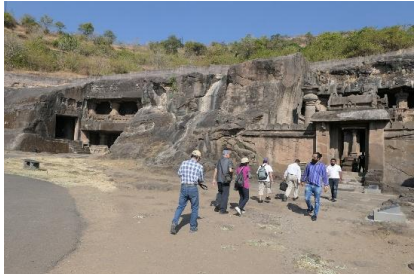
釈迦の涅槃像



第3日目：12月12日（木）世界遺産・エローラ石窟寺院・ミニタージマハル

◇この石窟は5～10世紀に造営された、古代3大宗教「仏教・ヒンドゥー教・ジャイナ教」の石窟寺院が一同に会するという世界唯一の場所である、その中でもヒンドゥー教のカイラサナータ寺院は、超有名であり、20万トンの岩を掘り出し100年の歳月を要したという巨大かつ華麗なる芸術的彫刻作品なのである。エローラには34の石窟があります。見学約2時間。

◇ミニタージマハルとは、タージマハルを模して、1660年に建てられた霊廟であります。



エローラ石窟群全景



石窟群の入口



石窟群の前で記念写真



見事な石柱群



仏像の前で記念写真



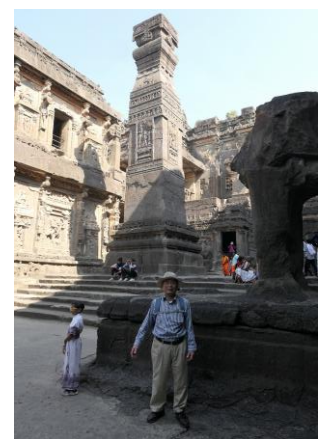
過去七仏



カイラサ・ナータ寺院を支える象たち



象の石像



幢柱の前で



インド人家族と記念写真



ミニタージマハル霊廟



観光のインド女性たち

第4日目：12月13日（金）世界遺産・エレファンタ石窟寺院・ムンバイ観光

◇エレファンタ石窟群は6～8世紀にヒンドゥー教の最高神シヴァ神に捧げられた石窟寺院として造営された。あらゆるシヴァ神のバリエーションが設定されている。その中央の聖室には、シヴァ神のリンガが祀られている。石窟は7つであります。

◇1911年ジョージ5世訪問記念の「インド門」はイギリス帝国の威厳と権力の象徴であった。

◇ムンバイのガンジー博物館は、1917-1934まで、「インド独立の父」マハトマ・ガンジーのムンバイにおける拠点であった。しかしながらガンジーの歴史的評価が現地では揺れていた。

◇昔、ボンベイ（美しい湾）、今、ムンバイ（女神）は、人口2500万人、デリーに次ぐインド第二の大都市である。活気に溢れていた。スズキ自動車40%を筆頭に、トヨタ・ホンダ・ヒュンダイ・ベンツが走っていた。スーパーマーケットは現代的であった。ホテルのクーラーはダイキンであった。ムンバイ泊。



世界遺産・ターミナス駅



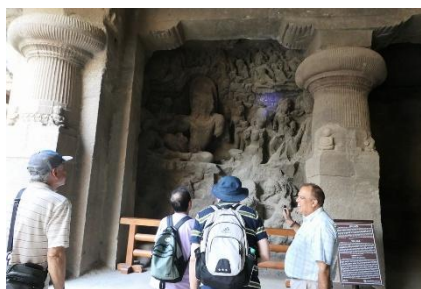
超有名なタージマハルホテル



イギリス帝国のインド門



エレファンタ島渡し船



エレファンタ石窟の入口



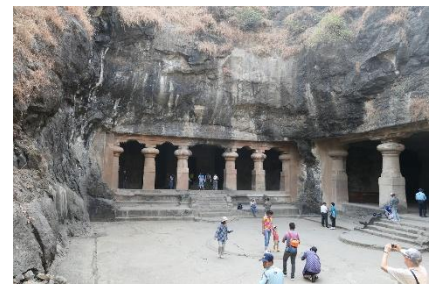
エレファンタ石窟の仏像



聖室の守護神



シヴァ神のリンガ崇拜



エレファンタ寺院の前庭



エレファンタ島の土産店



モンバイのガンジー記念館



きれいなスーパーマーケット

第5 - 6日目 : 12月14-15日 (土・日) 帰国

◇早朝に角尾さんと二人でムンバイの散策をした。市場から道路に延々と続く朝市は活気に溢れていた、学校のまえではバスに乗った遠足の子もたちを見送る大勢の若い母親たちの風景、鉄道駅の通勤風景、新婚旅行の見送り風景なども・・・どこの国でも同じある。
 ◇ムンバイ空港で、象の置物を3ヶ買って「三蔵(象)法師」としやれてみた。
 ◇クワランプールからマレーシア航空の関空便は東南アジアの人が7割、角尾さん曰く、MELCOMの関係者でにぎわった時代があった・・・と、懐かしい。ドアツウドア20時間。
 お陰様で事故なく帰国、冥途の土産がひとつできました。(終)



トウクトウクタクシー



モンバイの朝市風景



下まち住宅風景



子ども遠足の見送り風景



花嫁花婿の前撮り



新婚旅行の見送り風景

